

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適用措置	感染症(PT)	出典	概要
												梅毒	Lancet 2007; 369: 132-138	中国の性感染症サーベイランスシステム及び監視サイトネットワークからの症例報告データを収集し評価した。中国における報告された梅毒の全症例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であったが、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000人あたり5.7例であった。先天性な梅毒の発生率は、1991年には100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均71.9%の割合で大きく増加した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA Press Statement 2007年1月18日	輸血と関係した新たなvCJD疾患(4例目)が、最近診断された。この症例は後にvCJDを疑ったドナーからの輸血を受けてから約9年後にvCJDと診断された。同じ供血者からの輸血は以前に同定された1例とも関係していた。4例目の患者は以前からvCJDに暴露した可能性を知らされていた。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したヒトの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっている。4症例は全て、成分輸血に関連したものであり、血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告されていない。
												HIV	Vox Sanguinis 2007; 92: 113-120	20例の血友病患者が、1990年初頭以降、韓国で製造された血液凝固第IX因子の投与を受けてから1〜2年後にHIV-1に感染していると診断された。血漿ドナーと血友病患者で検出されたウイルス間の遺伝子関連性を調べた結果、両者とも、HIV-1サブタイプBの韓国subcladeに感染していた。韓国で売血ドナーの血液から製造された凝固因子により、少なくとも20例の血友病患者がHIV-1サブタイプBに感染したことが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J R Soc Interface doi:10.1098/rsif.2007.0216 Published online	血液由来のvCJDの流行の大きさを探るために感度分析を行い、公衆衛生的介入の有効性について調査した。数学的モデルを開発し、悲観的モデリング仮定で評価すると、自己持続的流行が起こるならは2080年までに900例以内、楽観的仮定では250例以内となった。大規模な又は自己持続性流行に至るシナリオの可能性はあるが実現性は低く、輸血を受けたヒトからのドネーション禁止措置等の公衆衛生的介入が有効である。